

作品を通して地域復興を ～学生道の駅アートプロジェクトに参加して～

団体名●佐藤ゼミナール／代表者名●宮内 愛理（人間科学部こども学科 2 年）

はじめに(背景・目的・目標)

近年、石川県に訪れる観光客は増加している。しかし多くの観光客は、金沢がほとんどで能登半島を訪れることが少ない。そこで私たちは、いしかわ百万石文化祭 2023 期間中、珠洲市にある道の駅狼煙に制作した道の駅や周辺の地域の魅力を伝えるアート作品の制作・展示を行った。私たちは、狼煙の魅力を伝えるべく、その土地についての情報を集め、想いを作品に表し、私達自身が作品を通して地域貢献に協力すること、仲間との協働する楽しさを感じることに、失敗や成功を繰り返しながら何度も挑戦する問題解決能力を向上させることを目標に活動した。



制作過程

活動内容

いしかわ百万石文化祭 2023 学生道の駅アートプロジェクトに参加。作品制作にあたり 5 月にしいのき迎賓館で県主催のキックオフミーティングを行った。道の駅アートプロジェクトに参加する大学生が集まり、どんな作品を作るのか紹介し合った。また 6 月には下見に行き、知ることのできた狼煙市の特色を踏まえ、ガラス作家である高橋先生の指導のもと金沢市立おしがはら工房作品でガラス玉を制作した。またそのガラス玉の中には手紙を入れて想いを伝えるということを表現した約 4 ヶ月ほどで完成した作品はゼミメンバーと話し合い、「玉梓」と名けて展示した。

成果、結果の考察

この活動を通して、仲間との協力することの大切さや諦めずに何度も挑戦する姿をたくさん見ることが良かった。また一つの作品を大人数で作ることで、一人だけでは味わえない喜びや達成感を感じられた。やってみると夢中になりすぎて言い合いになってしまうことがあったが、その度に問題解決能力の向上を図ることができた。また普段学ぶことのできない地域におけるアートの役割を知り、見識を広げ、様々な人と交流することができた。

今後の課題、展望

ガラス玉を設置するときにお客さんに見てもらうことに重視してしまい、安全面に配慮できていなかったことがあり、まだまだ改善の余地があると考え。また年齢問わず様々な人との関わりを持っていきたいと考えていたが、活動内容的に大人との関わりが多く、子供との関わりが少なかったように見られた。来年度は、安全面にも配慮しつつ、こどもたちとの関わりを多く持てるような体験的な活動も取り入れていきたい。今後もたくさんの人たちと関わりを持つことのできるゼミになっていきたいと考える。



完成した作品「玉梓」